

社会福祉法人 めやす箱
2026年度 地域生活部門
事業計画

(1) 法人理念

- 「利用者主体のニーズの追求」
- 「ナンバーワンの福祉サービスを目指す」
- 「職員が働きやすい環境づくり」

◇2026年度法人重点目標

- ①サービスの質・支援力の向上
- ②法人を担う人材の確保（採用・育成・定着）に向けた取組の強化
- ③法人経営の基盤・内部体制の強化
- ④地域共生社会の実現に向けた公益的取り組みの推進

(2) 地域生活部門事業

- ・倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
- ・倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
- ・倉敷市ひきこもり相談支援事業

(3) 年間具体的数値目標（倉敷市使用契約書における締結内容）

- ①倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
 - ・新規相談件数 1600件
 - ・支援計画作成件数 800件
 - ・就労支援対象者数 470件
 - ・就労・増収者数 350件
- ②倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
 - ・家計改善支援事業利用決定件 48件
 - ・支援計画（プラン）作成者のうち、自立に向けて改善が見られた者の割 38件
- ③倉敷市ひきこもり相談支援事業
 - ・新規相談件数 60件

(4) 地域生活部門目標

法人理念及び基本方針を基に、2026年度部門目標を下記事項に定める。

- ①生活困窮者・ひきこもり当事者・家族の主訴に対し専門的観点から適切な相談支援を含む各種行う
 - ・困窮者・ひきこもり当事者・家族の状態応じた支援を行う。

課題や問題に対して適切なアセスメントを行い、自立に向けた支援を行い、支援機関と連携し取り組んでいく。

- ・無料職業紹介事業の活用や就労準備的支援、ハローワークを含む関係機関との連携を綿密に行い、経済的自立が図られるよう積極的な就労支援を行う。
- ・相談支援・就労支援について、相談者の状況に応じたワンストップのオーダーメイドの支援を行う。
- ・アウトリーチ支援に重点を置き、支援を繋ぐ役割・関係機関との連携に努める。

②関係機関と協働した困窮者の早期発見・早期支援の実践

- ・関係機関と連携し、困窮者の早期発見・早期支援を実践する。
- ・地域の支援機関や団体と連携し、困窮者の相談窓口を地域に増やし、自立支援機関に相談できる体制作りを行う。支援調整会議やケース検討会を開催し、積極的に関係機関とケースカンファレンスを実施する事で、関係機関と連携を強めていく。

③困窮者の意思を尊重し、寄り添い・伴走型の支援を行う

- ・困窮者に対して様々な課題に焦点をあて、課題・問題・ニーズに応じた支援が行えるよう、相談員が的確はアセスメントを行う。
- ・関係機関と積極的に連携し、切れ目のない継続的な支援が行い、相談者が主体となる自立支援を行う。

(5) 地域生活部門事業展開について

- ・地域連携・地域協働のネットワーク作りの中で、対象者の社会自立に向けて支援を行い、地域を含めた居場所支援など取り組みを行う。
- ・困窮者の課題・問題に対し、自立に向けた支援を行い、生活自立に導く事ができるよう、自立支援機関としての責務を果たしていく。困窮者が、社会や地域で孤立する事がなく、自己有用感を持ち生活できるよう、支援に取り組む事が求められている。
- ・困窮者個々のニーズに対する早期支援・早期解決、自立に向けた積極的な支援が求められる。
- ・センターに繋がる事で、行政機関・医療分野・民生、児童委員・福祉分野などの関係機関等に周知し、連携できるよう取り組んでいく。

(6) 地域生活部門研修計画

月	活動名
4月	・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
5月	・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市ネットワーク協議会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・家計改善・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会

社会福祉法人めやす箱
2026 年度倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
計画書

1. 事業概要

- ・ 事業名称…倉敷市生活困窮者自立支援事業（倉敷市生活困窮者自立支援事業）
- ・ 事業実施場所…倉敷市阿知 1 丁目 7 番 2-804-2 号 くらしきシティプラザ西ビル 8 階
- ・ 事業責任者…池田朋宏（社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3 級）
- ・ 職員配置図（2026 年 4 月 1 日）

	センター長 主任相談員	副センター長 家計改善支援員	相談員	就労支援員	合計
常勤職員	1	1	4	3	9
常勤職員兼務	0.1	0.6			

2. 事業目標値（12 ヶ月）

- ①新規相談件数 1600 件
- ②支援計画作成件数 800 件
- ③就労支援対象者数 470 件
- ④就労・増収者数 350 件

3. 事業目的

- ・ 困窮者支援において経済的困窮相談や引きこもりや社会的孤立・孤独問題・8050 問題・DV 問題・児童不登校問題・様々な疾患などからくる生活苦や依存症など、支援対象者を幅広く捉え寄り添い・伴走型の支援を行う。
- ・ 相談者の心情に寄り添い相談者に対し受容・傾聴の姿勢で支援にのぞむ。また、信頼関係の構築に努め、断らない相談支援を行う。
- ・ 専門的な視点でのインタビューアセスメントを行い必要な支援に的確に繋げる。また、支援員のスキル向上に向けた取り組み・支援機関との連携の積み重ね・センターの周知啓蒙・困窮支援のプラットフォーム化など様々な視点から支援を行う。
- ・ ワンストップの支援機関として、相談者の課題・問題解決・また生活の自立に向けて相談支援体制の充実を図っていく。
- ・ 相談者の複合的な課題・問題に対し包括的な観点で捉え、個々の状況に応じた支援に取り組む。

4. 自立相談支援の実施

- ・ 生活困窮者自立支援において、相談者の自己選択・自己決定を尊重し相談者自身が目指す

目標に向けて、伴走型・寄り添い型の支援を行う。

- ・相談者は、複合的な課題を抱え自力で解決が困難な状況や自己有用感の低下・自尊心の欠如などパワーレスな状態が見られる場合が多い為、相談支援員はそのような状況を理解し、相談者の想いに耳を傾け、受容と傾聴の視点に立った支援に取り組む。
- ・相談支援に対して相談者の話を聞いて終わるのではなく、積極的な支援提案を行い支援同意に繋げる事を目標に専門的な観点で相談支援に取り組む。
- ・相談支援員のアセスメントスキルを高める為、アセスメントスキル向上に向けて常に研鑽を行い、相談者や相談者周囲を含め幅広い視点をもってアセスメントを行い、課題・問題を的確に抽出し支援に繋げる。
- ・受援ニーズがなく支援に繋がらない場合でも、見守り支援のような間接的支援により関わりを持ち続ける。関わりを持ち続ける事で、相談者の状況変化により支援介入のタイミングが訪れる孤立・孤独解消の観点からも必要な支援である事から積極的に取り組む。また、地域や支援機関での見守りも必要となる為、日頃から地域を含む関係機関との連携意識を高く持ち継続的で切れ目のない支援に取り組む。
- ・一般就労に向けた支援・就労定着に向け支援を、公共職業安定所との連携や、無料職業紹介事業を活用した、手厚い就労支援を行い、早期の就職や安定した収入を目指す。
- ・就労準備支援事業や就労訓練事業と連携して、一般就労や社会参加に向け、個々の状況に応じた支援を行う。
- ・定例・引きこもり・就労準備・重層型支援体制整備事業等の各支援調整会議において、複合的な課題を抱えるケースの対応方法、関係機関との情報共有、支援連携の要請、プラン内容の確認等自立支援機関の支援内容について、定期的な検討の場を設ける。

5. 事業の具体的内容について

(1) 自立相談支援事業について

① 相談支援

- ・センター長・主任相談支援員・相談支援員・就労支援員・家計改善支援員と連携し自立に向けた包括的且つ継続的な相談支援事業（アウトリーチ支援を含む）を行う。
- ・相談者の希望・要望に真摯に対応し専門的な観点でインタビューアセスメントを行う。相談者の抱える課題・問題を明確にした上で、相談者主体の寄り添い・伴走型の支援を行う。
- ・支援に繋がりにくい相談者・家族を含め、積極的にアウトリーチ支援などのアプローチを行い相談者との信頼関係を構築し支援に繋げる。
- ・本人の意思を十分に勘案し、本人と協働して支援計画の策定を行う。
- ・支援計画の内容に関する検討及び関係機関による支援調整を目的とした、支援調整会議を実施する。
- ・支援計画内容における本人の状況変化・目標の達成度を確認する為、モニタリングを行う。支援目標が達成した場合、本人の生活状況の確認・本人の意思を確認した上で支援終了か

支援継続を検討する。

② 就労支援

- ・ハローワークと連携した生活保護受給者等自立促進事業・無料職業紹介事業・若者サポートステーションなどの就労支援機関との連携、任意事業の就労準備支援事業・就労訓練事業の活用など、本人の状況に応じた就労支援を行う。
- ・無料職業紹介窓口業務の運営・活用を行う。困窮者の特性に応じた求人紹介、求職者の就労支援（ジョブサポート支援）、職場体験・見学など寄り添い・伴走型の就労支援を行う。
- ・無料職業紹介事業を活用し企業開拓を行い、自立支援機関独自の求人開拓に取り組み、企業と連携し、就労継続に向けた支援を行う。
- ・相談者の状況に応じて段階的に、日常生活の支援から社会参加を目的とした支援、就労準備支援事業や就労訓練事業（倉敷市に登録している社会福祉法人・NPO法人・企業などの訓練事業所）を活用し就労の準備に向けた支援など相談者の意思・状態を尊重した支援を行い、経済的自立を目標とした一般就労に向け、寄り添い伴走型の就労支援を行う。

③ 関係機関との情報共有

- ・相談者個々の支援において、支援機関との連携を積極的に行う。特に、複合的な課題を抱える相談対応・支援困難な相談対応など、センターのみの支援では難しい場合、支援調整会議でセンターの支援内容についての検討・支援機関との連携内容や役割分担・新たな連携の必要性・活用可能な社会資源等を検討し、支援を築いていく。
- ・支援調整会議では、相談者の個人情報を含む（生活状況・家族構成等）を記載した協議書を作成し会議で使用する。
- ・支援調整会議の種類について
 - ア 定例支援調整会議（複合的な課題を抱える相談ケース対象）
 - イ 就労支援対象者支援調整会議（生活保護受給者等自立促進事業）
 - ウ 家計改善支援事業支援調整会議
 - エ 倉敷市ひきこもり相談支援事業支援調整会議

④ 任意事業との連携業務

- ・「生活困窮者就労準備支援事業」との連携
- ・「生活困窮者就労訓練事業」との連携
- ・「倉敷市生活困窮者一時生活支援事業」との連携
- ・「倉敷市生活困窮者家計改善支援事業」との連携
- ・「倉敷市学習教室「くらすぽ」運営事業」との連携
- ・「倉敷市小学生等訪問型学習・生活支援事業いえさぽ」との連携

⑤ 住居確保給付金事業業務

- ・住居確保給付金事業における申請支援
- ・住居確保給付金受給中の就労支援及び活動報告などを含む相談支援
- ・住居確保給付金に伴う転居支援、その他必要な生活支援全般

- ・住居確保給付金事業における制度説明および申請手続きにおける支援を行う。
- ・住居確保給付金受給中の就労支援及び就職活動報告面談などの支援を行う。

⑥食糧支援について

- ・困窮者に対し緊急的支援として食糧配布（日用品）を行い、生活維持を確保する為の支援を行う。食糧品については、地域住民や企業からの寄付を募り確保する。
- ・食糧配布についての同意書・寄付食糧提供表に署名を貰い、受け取る側の同意を経て支援を行う。
- ・フードバンク岡山・順正学園 DFK（デリシャスフードキッズクラブ）などの支援団体と連携する。

⑦子どもの困窮対策事業の活用について

- ・困窮世帯の児童及びその可能性のある児童に対し支援機関と情報共有を行い、早期支援介入に向けて、支援ネットワークを構築し子どもの貧困改善に向けた支援を行う。
- ・子どもの居場所支援機関・子ども食堂団体との連携も行い、子どもの安全確保・活動の保証なども検討した支援を行う。支援機関（児童相談所・子供相談センター・学校・スクールソーシャルワーカー・ハローワーク・その他子ども関係機関）と適宜情報共有・連携し包括的な支援を行う。

⑧生理の貧困に対する取り組みについて

- ・困窮世帯へ生理用品を無料配布し生理の貧困に対する取り組みを実施する。また、生理用品無料配布を足掛かりに支援への繋ぎを行う。
- ・配布方法として、センター内に案内板を設置し生理用品を無料で受け取れる仕組みを作る。（無料券を窓口を設置し、無料券を相談員に渡し生理用品と引き換える）

5. その他の業務

(1) 就労支援・就労訓練事業を通じた地域企業との連携について

- ・無料職業紹介事業で企業と繋がりを持つ中で、特に人手が必要な産業をピックアップし企業にアプローチをかけ就労体験や就労実習に繋げる。就労体験や就労実習を通して就労意欲の向上・直接雇用へと繋がりを作っていく。
- ・引きこもりや長期離職者など、就労する事が困難な状況など同じ境遇の者同士作業する事で一体感や団結力・意欲の向上も作業を通して変化が見られるなど効果がある為、地域企業との連携を一層活性化していく。

(2) ネットワークの強化について（倉敷市生活困窮者ネットワーク会）

- ・生活困窮支援のプラットフォーム化を目的とし困窮者支援事業の起点を作り、そこから様々な団体との繋がりを作っていく。今後の活動において地域資源との繋がり・資源開拓・必要な資源構築などにも取り組み、様々な支援機関・団体との繋がりも作っていく。
- ・支援者同士の定期的な勉強会・研修会を企画し支援者・支援機関同士の相互理解を深めていく。研修会や勉強会ではお互いの連携できる内容・課題を共有し、協力できる部分を明

確にする事で、円滑な連携支援を目指し、支援者同士の良好な関係性の構築を図る。

- ・居場所支援として、地域住民との連携・地域企業との連携・インフォーマルな団体との連携において、仕事を目的とした居場所・余暇を目的した居場所・繋がりを目的とした居場所など、様々な居場所支援を考え、地域資源も巻き込んだ支援をネットワーク会で考え取り組んでいく。

(3) 一人親支援の対策の強化について

- ・養育費問題・就労家計問題など、一人親家庭の貧困に陥る課題に包括的且つ継続的に支援を行う。地域で活動する団体と連携を図り、貧困の連鎖の断ち切りやヤングケアラー・生理の貧困問題など様々な問題に対応する。学習教室くらすば・小学生等訪問型学習・生活支援事業いえさぼとの連携・教育機関との連携・支援調整会議を活用した連携など、生活困窮状態からの改善の視点で取り組む。

6. 年間活動計画・研修計画

* 毎月定例・就労・就労準備支援調整会議は開催している

月	活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・生活困窮者自立支援制度勉強会 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会 定例会議
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会 定例会議
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・生活困窮者自立支援制度担当国会議
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会 定例会議
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・生きるを支えるフォーラム研修会 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・生活困窮者自立支援全国研究交流会 ・就労支援員初任者研修
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・倉敷市要保護児童対策協議会研修会 ・ひきこもり支援を考える専門分科会 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会 ・相談支援員初任者研修
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・生活困窮者自立支援制度中国四国ブロック研修 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議 ・倉敷市生活困窮者ネットワーク会 定例会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活保護受給者等就労自立促進事業支援調整会議
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策協議会（倉敷・玉島・水島・児島地区） ・緊急支援調整会議 ・倉敷市内の関係機関主催の研修会 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会

社会福祉法人めやす箱
2026 年度倉敷市生活困窮者自立相談支援業
計画書

1. 事業概要

- ・事業名称…倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
- ・実施場所…岡山県倉敷市阿知 1 丁目 7 番 2-804-2 号くらしきシティープラザ西ビル 8 階
- ・事業責任者…池田 朋宏（社会福祉士・精神保健福祉士・FP3 級）
- ・事業担当者…文箭 美里（社会福祉主事・FP3 級）
- ・事業実施形態…1 週 5 日とし、週 2 日（火・木）を家計支援業務に従事

月	火	水	木	金
自立相談	家計改善	自立相談	家計改善	自立相談

（職員配置図）（2026 年 4 月 1 日）

	家計改善支援員 （自立相談支援事業との兼務）	合計
主任相談員兼務	0. 1	0. 1
相談支援員兼務	0. 4	0. 4

2. 事業目標値（12 カ月）

- ①目標値…家計改善支援事業利用決定件数…48 件
- ②支援計画（プラン）作成者のうち、自立に向けて改善が見られた者の割合…38 件

3. 事業目的

- ・生活困窮者の抱える課題・問題を早期に解決に導き、安心・安定した生活が営めるよう、家計改善の観点から支援を行う。
- ・家計収支の均衡が崩れ自力での家計改善が困難となり困窮状態に陥っている困窮者に対し、安定した家計管理が行えるよう、家計改善スキルの向上を目指した支援を行う。
- ・物価高等の不安定な社会情勢による家計状況の悪化により、債務超過・税金等の滞納により生活困窮状態に陥っている状態から脱する為の家計支援を行う。
- ・収支バランスの可視化や短期的視点・長期的視点を見据えた家計の推移等を見える化し、継続的な返済計画が立てられるよう支援を行う

3. 家計改善支援の実施

- ・家計改善の観点から相談者の抱える課題・問題を早期に解決に向け支援を行う。また、家計表・家計計画書・キャッシュフロー表など家計改善支援ツールを活用した支援を行う。
- ・家計収支の均衡が崩れ自力での家計改善が困難となっている場合、家計課題を明確にし安

定した家計管理が行えるよう、相談者自身の家計改善スキルの向上を目標にした支援を行う。

- ・債務超過・税金滞納など困窮状態の要因に対し、弁護士・司法書士などの専門家や国民健康保険や納税などの担当課と連携し、債務整理・分納相談など家計改善支援ツールを活用した支援を行う。
- ・債務・滞納返済額・返済期間・世帯家族に応じたライフイベントの支出など家計表を活用し収支を見える化し、収支バランスの可視化・短期・長期的視点を見据えた収支予測など状況に応じた継続的な家計計画が立てられるよう支援を行う。
- ・債務整理や減免制度の利用、貸し付けの斡旋・債務返済に関する具体的な支援内容等、家計再生に向けた内容を共有する為、本人の状況を勘案し家計生成プランを作成する。
- ・家計再生プランに基づく支援を行う為、家計改善支援調整会議を実施する。
- ・支援の進捗状況確認時・支援期間終了前に、家計表・キャッシュフロー表を用いて支援のモニタリング・評価を行う。家計管理能力や債務・滞納の償還状況を勘案し、以下の内容において評価する。

① 評価基準について

- ア 収支バランスが改善した
- イ 自立した生活の見込
- ウ 家計の中長期的な見通し及び債務滞納の解消
- エ 家計理解と優先順位スキル

4. 事業の具体的な内容

- ・家計相談支援員が、家計状況アセスメントを行い相談者と共に家計改善の洗い出しを行い、改善点を明確にする。
- ・家計表やキャッシュフロー表を活用し、収支のバランス・債務滞納の状況確認など、家計状態の可視化する。
- ・家計状況の推移を確認し収支安定に向けた課題の洗い出しを行い、相談者と共に家計再生プランを作成し改善目標を立て、家計表やキャッシュフロー表を活用し月の収支や中長期での世帯の収支について支援を行う。
- ・債務・滞納がある場合、状況を明確（債務先・債務の金額・滞納先・滞納金額）にし消費生活センターや税金・保険各課などの必要な機関と連携する。連携時には同行支援を行い、家計表・キャッシュフロー表などを用いて返済についての情報共有を行う。
- ・家計改善支援調整会議で支援内容について協議し家計改善支援の利用決定を行う。家計改善支援利用者には、各書式（家計再生プラン・家計表・キャッシュフロー表・モニタリング表・終結書）を活用した支援を行う。
- ・支援調整会議では、支援経過・目標達成進捗状況などのモニタリングを行い、支援終結についても検討する。支援終結時は、目標達成度・課題解決・家計収支・債務・滞納の

返済状況など本人の状況変化・家計管理能力などを確認し評価を行い終結する。

5. 年間活動計画・研修計画

月	活動名
4月	・家計改善支援事業 支援調整会議
5月	・家計改善支援事業 支援調整会議
6月	・家計改善支援事業 支援調整会議
7月	・家計改善支援事業 支援調整会議
8月	・家計改善支援事業 支援調整会議
9月	・家計改善支援事業 支援調整会議
10月	・家計改善支援事業 支援調整会議 ・家計改善支援事業支援員初任者研修
11月	・家計改善支援事業 支援調整会議
12月	・家計改善支援事業 支援調整会議
1月	・家計改善支援事業 支援調整会議
2月	・家計改善支援事業 支援調整会議
3月	・家計改善支援事業 支援調整会議

社会福祉法人めやす箱

2026年度倉敷市ひきこもり相談支援事業（ひきこもりステーション事業）

計画書

1. 事業概要

- ・事業名…倉敷市ひきこもり相談支援事業
- ・支援拠点…岡山県倉敷市阿知1丁目7番2-804-2号くらしきシティープラザ西ビル8階
- ・事業責任者…池田朋宏（社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3級）
- ・支援コーディネーター…松本 奈緒（社会福祉士・精神保健福祉士）

（職員配置図）

	常勤換算
コーディネーター（常勤職員）	1

2. 事業内容

- ・ひきこもり状態にある者、自らSOSが出せない状態にある者、受援ニーズはないが家族が支援を望んでいる、関係機関が支援を必要としているなどの人達にアウトリーチ型の相談支援を行う。
- ・受援ニーズが無くともニーズを引き出す為、継続的に繋がる事を目的とした支援を行い、支援が長期間になろうとも緩やかに繋がりを構築する。
- ・相談者個々の状況や生育歴・生活歴等相談員によるインテーク・アセスメントを行い、より効果的支援方法を提案し実施する。
- ・対象者または家族から支援同意を得て支援計画書を作成し支援内容を明確にする。また、定期的にモニタリングを実施し支援の進捗状況を確認する。
- ・関係機関と連携した支援として、引きこもり支援調整会議を定期的実施し支援内容について適宜検討する。支援終了についても支援調整会議で検討する。
- ・関係機関との情報提供・共有として、ひきこもり支援調整会議や個別ケース会議での情報提供や情報共有を行う。
- ・生活困窮者就労準備支援事業や生活困窮者就労訓練事業等の任意事業を活用・連携を積極的に行う。
- ・余暇活動・サロン活動の取り組みとして、社会との繋がりの再構築に向けて、センターが主体となり、余暇活動の提供やサロン活動の提供を行う。
- ・当事者団体・関係団体・地域で実施している、余暇活動・サロン活動等の情報を収集し、必要な支援に繋ぐ。

3. 事業目標（具体的取り組み）

- ① 引きこもり等、配慮が必要とされる相談者の支援強化

- ・引きこもり等の相談に対して、訪問型支援・家族支援等、状況に応じた支援提案と共に、対象者との繋がりが持てるよう、積極的な支援を行う。
 - ・引きこもり支援調整会議等を通してケース検討を行い、様々な観点から支援アプローチを行い、関係機関と連携した、継続的な支援を実施する。
 - ・引きこもりの状況に応じて、就労準備支援や就労訓練事業、無料職業紹介事業を活用し、オーダーメイド型の支援を行う。
 - ・引きこもり支援では、専門的な支援スキルが必要となる為、研修会や勉強会など積極的に参加し、支援スキルの向上を目指す。
 - ・ひきこもり支援や伴走型支援・アウトリーチ支援などの研修会へ積極的に参加し、支援の向上を図る。引きこもり支援相談士などの資格取得に向けても取り組む。
 - ・地域のある資源を把握し、個々のケースに応じた社会資源への繋ぎを行う。高齢者支援センター・社会福祉協議会等と連携し、社会資源への繋がりを作る。
- ② アウトリーチ支援のスキルアップを目指す
- ・アウトリーチ支援を活用してネットワークを構築し、関係機関との同行支援など積極的に行う。他機関の開催する研修会などに参加し、アウトリーチ支援について広報する。
 - ・ひきこもり支援や伴走型支援・アウトリーチ支援などの研修会へ積極的に参加し、支援の向上を図る。また、引きこもり支援相談士などの資格取得に向けても取り組む。
- ③ 社会資源の把握・連携
- ・地域のある資源を把握し、個々のケースに応じた社会資源への繋ぎを行う。
 - ・地域にある社会資源を把握する。高齢者支援センター・社会福祉協議会等と連携し、社会資源への繋がりを作る。
 - ・居場所支援を定期的に企画・実施し、孤立孤独に対する支援を行う。
 - ・居場所支援などの社会資源を把握し、対象者向けの資源マップの作成を行う。

4. 年間活動計画

月	活動内容
4月	・ひきこもり支援調整会議
5月	・ひきこもり支援調整会議
6月	・ひきこもり支援調整会議
7月	・ひきこもり支援調整会議 ・ひきこもり支援を考える専門分科会
8月	・ひきこもり支援調整会議
9月	・ひきこもり支援調整会議
10月	・ひきこもり支援調整会議
11月	・ひきこもり支援調整会議
12月	・ひきこもり支援調整会議

1月	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり支援調整会議・ひきこもり支援を考える専門分科会・ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会
2月	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり支援調整会議
3月	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり支援調整会議
随時	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり・アウトリーチ支援関連研修会・倉敷市内の関係機関主催の研修会